



(日本共産党)

なんこう あきお 議員
南口 彰夫

1、カルストクリーンセンターの現状と課題について

問 カルストクリーンセンターは、機械の保守点検、修理も含めて人材育成やノウハウの面でも地元企業が対応できるようにするべきではないかお尋ねします。

答 この施設は焼却施設ではなくRDF、つまり固形燃料をつくる施設です。その後の処理は宇部興産(株)伊佐セメント工場にお願いしています。

昨年約7千トンのごみが搬入されました。1日の処理能力は28トンです。

RDFの機械のメンテナンス、

修繕については、随意契約で業務委託をしています。金属類の混入等で故障が頻繁にあります。トラブル的に対応にも努めています。

施設の課題としては、年27万リットルの灯油を消費していますので、省エネ化など経費削減に努めています。



カルストクリーンセンター

2、美祢社会復帰促進センターとの共生事業のあり方と今後の課題について

問 美祢社会復帰促進センターの建設で、地域地元

の雇用など共生を目的として地域と密着した取り組みを強調していましたが、最近、センターの訓練として業務の一部を委託から内製へと変更が行われているようです。

こうしたことが法務省の通達等があるまで事前にわからない

といった対応の不十分さがなかったのかお伺いします。

答 地域住民や市内工商业者との共生の実現を目指していますが、これまで民間企業で行っていた施設内の給食業務及びリネン業務を職業訓練としてセンター生に行わせることとし、当該業務の民間企業従業員を39人削減されると聞いています。新たに収容棟の増設で警備員等27人新規雇用を確保するとの報告もあります。

当初は全体で2千人を収容する計画で今後も施設の増設計画がありますので、法務省との協議を続けていきたいと考えています。

問 美祢市の福祉サービスについてお尋ねします。

答 第一次美祢市総合計画の安全・安心の確保を達成するために、福祉サービスの向上に努めていきます。このたびの配食サービスの裁判判決を厳粛に受け止め襟を正す必要があると考えています。



(公明党)

おか やま たかし
岡山 隆 議員

1、介護保険事業計画の 総括と今後の介護保険事 業計画の策定に関して

問

美祢市における特別養護老人ホームなど、介護施設の待機者の実態把握、ケアハウス、グループホームなどの特定施設の整備状況と経済的負担軽減策は適切なものか、第4期介護保険事業計画の進捗状況と総括について、お尋ねします。

答

地域密着型小規模特別養護老人福祉施設1ヶ所、地域密着型小規模多機能型居宅介護施設1ヶ所、グループホーム2ヶ所の施設設置目標が達成されました。関連施設の定員数は本年8月調査時点で463人ということで、こ

れに対して待機者数は412人です。厚生労働省における調査で待機者即ち、入所申込み者のうち実際の待機者は22・5%であるという数値も報告されているので、冷静に対処します。

問

介護認定のあり方と介護予防について、公明党の介護総点検調査結果では、認定審査に時間がかかり、認定結果が低いとの現状があります。又、認知症を予防し元気な高齢者として生活する為、介護予防の拡充策について、お伺いします。

答

調査から認定を決定するまで、2〜3週間、概ね30日以内というのが一つの基準です。調査については、介護福祉士、介護支援専門員、看護師や保健師などの資格を備えた適任者に限り、人事所管課と協議をして、安定的な調査員の確保を図ります。介護予防策の拡充は地域包括支援センターの職員が作成したケアプランに基づき本人に添ったサービス利用として、運動機能の向上、口腔機能向上を目指した教室や、

認知症予防教室などの支援を実施しています。

問

第5期介護保険事業計画（平成24年度〜26年度）については、介護保険料などの試算についてはどのような所見をお持ちなのか、お伺いします。

答

現在、計画策定に向けて本年の給付実績や人口動態等、統計データの分析により、保険料の試算を行っています。骨子案、原案を作成した後、美祢市高齢者保健福祉推進会議において、審議結果を聞いて、決定する予定です。

2、今後の上水道事業 における中・長期的な 事業計画に関して

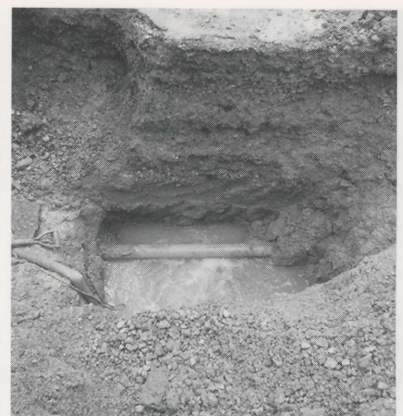
問

美祢市水道水における水道普及率は92・9%ですが、上水有収率は75・6%、簡易水道は73・9%という状況です。

第1次美祢市総合計画では、

答

平成26年度までに有収率を78%まで回復させる計画があります。打開策としてハイパーポリエチレン管の付設など、有収率の向上などの対応策が必要と思いますが、ご所見を伺います。



破損した水道管（上領地域）

第10期上水道事業拡張計画が今年度から3ヶ年計画で策定されています。美祢市は総面積が472kmを超え、家が点在しているエリアに、全部ハイパーポリエチレン管を付設すれば、莫大な費用が掛かります。こうした費用は水道料金に反映されてしまいます。

今後、90%の有収率に近づけるように、コストパフォーマンスも考えて、知恵を出して努力してまいります。